

# 2回戦

13年春季リーグ  
第3週・4月25日  
4勝0敗

駒大	1	3	0	0	0	0	0	4
中大	0	0	0	0	0	0	0	0

# 単独首位!

## 完封ルーで無傷の4連勝

# ☆ 駒大4-0中大

	打安点
(9)砂川	410
(4)福山慎	200
(6)下川	400
(8)江越	310
(5)福山亮	411
(2)木下	410
DH柳原	300
(3)西村凌	320
(7)齋藤	200
計	2961

	回	打安責
○片山	6	2460
高橋涼	3	1340



〔左〕 継投した高橋涼は零封を守り切った



〔右〕 リーグ戦初勝利を手にした片山

悪天候のため一戦目から一日空けての第二戦。試合は相手の失策や連続四球など好機を逃さず序盤に4得点。守りきる形でチームは今季初の完封勝利。中大からは3季ぶりとなる勝ち点を挙げた。

昨秋、最終戦で3安打完封負けを喫した相手投手との対戦は予期せぬ展開となった。先頭の砂川哲平(法3)が左前打で塁に出ると、連続四球で2者が出塁。一死満塁から福山亮(営3)の遊ゴロ間に帰還し、先制点を挙げる。2回にも、3つの四球と敵失が絡み無安打で一挙3得点。さらに差を広げる形で流れをぐっと引き寄せた。

しかし、この後打線がつかまらない。制球が定まらない相手投手の四球もあり、出塁こそするが得点圏に走者を進められない。得点は序盤の4点のみ、打線も内野安打2本を含む6安打で試合終了となった。試合後、今季から4番に座る江越大賀(法3)も「全然打ったって感じじゃなく、ミスでとった点。投手を攻略出来ない。打たされた感じ」と話せば、捕手の木下も「自分たちで勝った気はしない」と、評価に難い試合に厳しい表情を浮かべた。

そのなか、先発・片山雄貴(経2)は多彩な中大打者の前に毎回走者を出す、要所を締める投球で再三の危機を乗り切り、リーグ戦初勝利を飾った。

ここまで前半4戦全勝と、単独首位に躍り出た駒大。中盤戦となる次戦の青学戦が優勝への勢い付けの鍵となることは間違いない。

文 五十嵐秋音  
写真 池田初、山本春熙

## 松本主将が選ぶ!



今日のベストプレイヤー! 「ピッチャー2人です」  
ベストルー! 「チャンスで片山が抑えたときですね」

# ROOKIES・福山慎吾 36



晴れ晴れとした笑顔を満開に咲かせ、グラウンドを駆け回る。「楽しかった。いい緊張感でできた」と聖地・神宮を思う存分楽しんだ専大戦。楽しくて、そしてうれしくてたまらない。初めて兄弟の名前が並んだスコアボードにも「うれしかった」と、顔をほころばせた。福山は習志野高2年次に甲子園出場、3年次には主将としてチームを牽引。高校時代、東海大相模の主将として甲子園準優勝に導いた兄・亮(3年)に憧れ大学は名門・駒大の門を叩いた。春季オープン戦で早々と結果を残し今季中大2回戦では2番・セカンドのスタメンに大抜擢。だが、「力不足。課題は見つかったから練習するだけ」と浮かれることはない。先は長い大学野球生活。目標の兄に並び、そして追い越せるのか。その歩みはまだ始まったばかり。(池田 初)